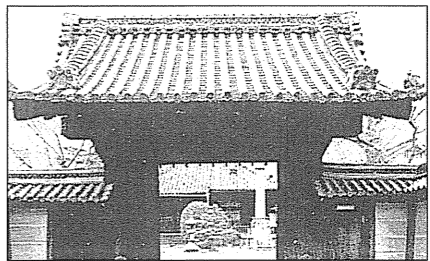


中世の宗教都市、江戸時代は一大商業都市に

寺内町とは真宗の寺院を中心に掘りや土蔵で防御した町をいいます。富田林寺内町(富田林市富田林町)は永禄初年1558~1561(に誕生しました。京都興正寺の証秀上人が訪れ、「荒芝地」を銭百貫文で購入近隣



4ヶ村から八人の有力者を集めて興正寺別院を建立し、8人衆の合議制のもとで御坊を中心とした町づくりが行われました。江戸時代には幕府の直轄地となり、近くを流れる石川の水運、東高野街道・千早街道が交差する陸運に恵まれて、商業の町として大いに発展。特に酒造業が盛んで、寛文の頃の記録(1668)では、51職種、149の店が軒を並べていました。商いのみならず寺内町は文化の町として発展をとげます。杉山家や御坊では能や浄瑠璃が盛

町並み(重要伝統的建造物群保存地区)

約450年前の時間が今に、明日に

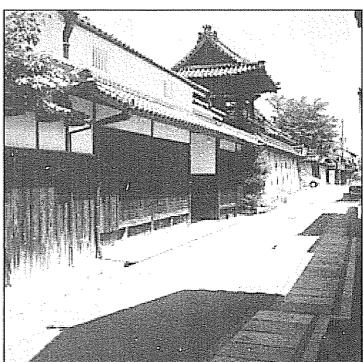


寺内町ができた頃は戦国時代のさなか。町には戦乱を避ける知恵が随所に生かされています。町は一段上がった台地のうえに。周囲には土居をめぐらせて竹やぶ(有事には竹やりにする)を植え、町筋の道と道は「あてまげ」といって半間ほど道をずらし、見通しを妨げています。寺内町にある建物の約500棟のうち、約180棟が江戸、明治、大正、昭和初期の建築です。特に城之門筋から旧杉山家住宅にかけては町並みがよく残っているところで、平成9年10月、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。寺内町には中世期から続く町が今に残り、明日息づいています。

んに興行され、町人の間では俳諧がブームとなりました。また、周辺の農家の前庭には葡萄が栽培され、その葡萄からできたワイン(葡萄酒)を寺内町の名産とするなど、寺内町には、自由で新しい時代を拓く気風が満ち溢れていました。

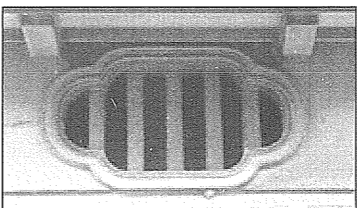
寺内町点描

町並みの表情に見る 知恵・文化・暮らしぶり



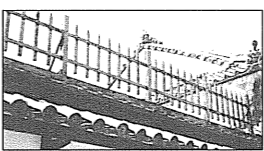
◆虫籠窓

厨子2階(屋根裏部屋)の明かりとりと、風通しのために設けられたもの。江戸時代は木爪型、幕瓜型、幕末は扁平型、明治以降は長方形になりました。



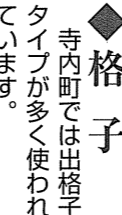
◆あげ店

収納式の縁台。使わない時には上にはね上げて壁に収めておきます。



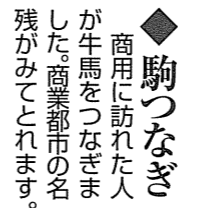
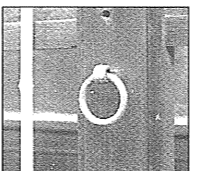
◆忍返し

塀の上に先のとがった竹・木を並べ、防犯用に使いました。



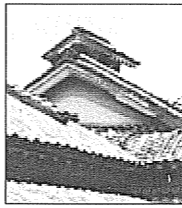
◆格子

寺内町では出格子タイプが多く使われています。



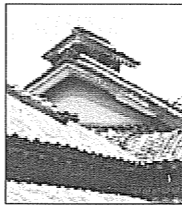
◆鬼瓦

屋根に装飾的に使われる瓦。魔よけの意味があります。



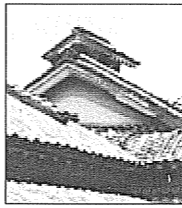
◆煙出し

かまどの煙を外に出すためにつけられた越し屋根です。

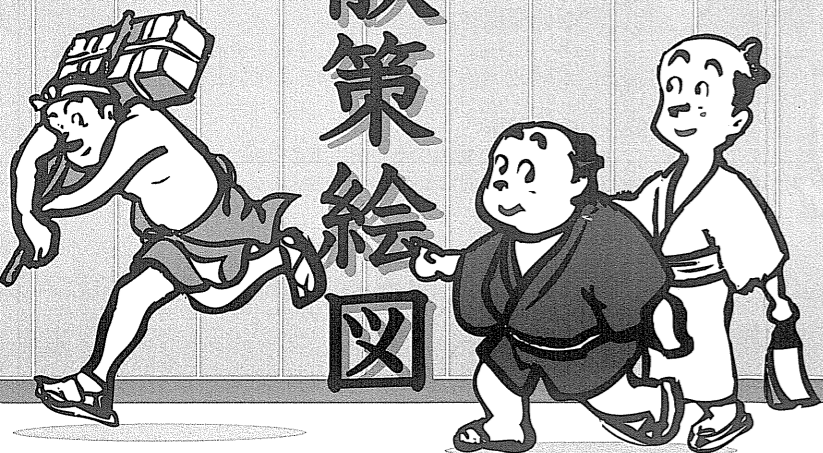


◆駒つなぎ

商用に訪れた人が牛馬をつなぎました。商業都市の名残がみとれます。



富田林 じないまち散策絵

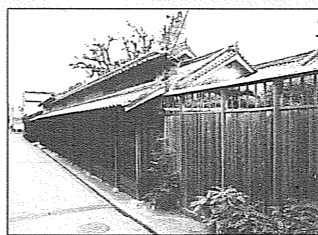


女流天才歌人・石上露子の生家 旧杉山家住宅 (重要文化財)



4層の大屋根が特徴。寺内町の創設期からの旧家で、代々酒造業を営み、南河内酒造業の肝煎り役(きもいりやく)を務めました。主屋は土間が17世紀中頃と最も古く、享保19年(1734)ごろ現在の形に整いました。明治の終わり堺の与謝野晶子らと活躍した明星派歌人石上露子(本名杉山タカ)は明治15年(1882)当家で生まれました。敷地内の倉には、露子ゆかりの遺品を展示しています。

酒造りで名を馳せた 仲村家住宅 (大阪府有形文化財)



仲村家は屋号を「佐渡家」といい、酒造業を営んでいました。天明5年(1785)の酒造高は河内一の二千三百三十五石に達しました。主屋は寺内町でも珍しい表屋造(おもてやづくり)で天明3年(1783)の建築。若かりしころの吉田松陰も訪れています。(非公開)

◆葛原家
葛原家は屋号を「たばこ屋」とし、江戸末期に酒造業を始めたと伝えられています。表玄関を持つ別座敷、土蔵などに大商人の実力がしのべれます。

◆(南)葛原家
(南)葛原家は向かいの葛原家の分家で、主屋の東に茶室と珍しい三階倉があります。

◆浄谷寺
浄谷寺は融通念仏宗大念仏寺の末寺で、寺伝によると弘安9年(1286)の創立で天正2年(1574)に現地に移転しました。

◆妙慶寺
妙慶寺は慶長8年(1603)の創立。本堂は東向き。庫裡・太鼓楼などが並びます。

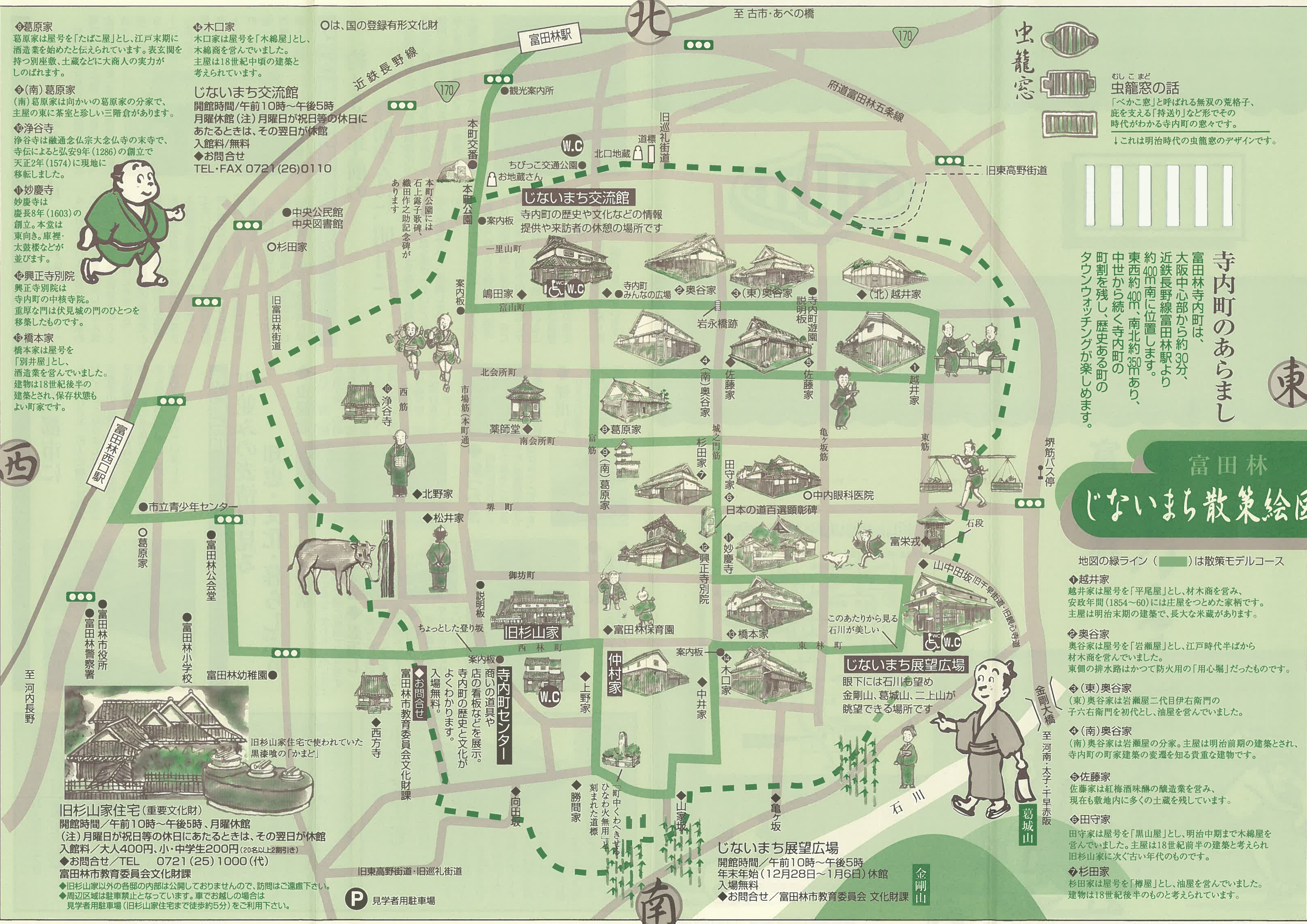
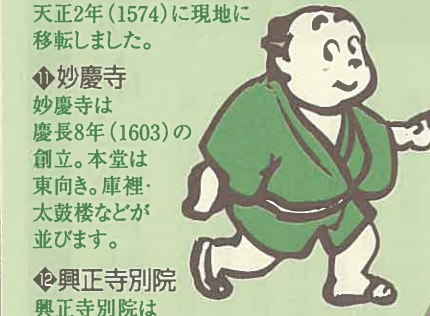
◆興正寺別院
興正寺別院は寺内町の中核寺院。重厚な門は伏見城の門のひとつを移築したものです。

◆橋本家
橋本家は屋号を「別井屋」とし、酒造業を営んでいました。建物は18世紀後半の建築とされ、保存状態もよい町家です。

◆木口家
木口家は屋号を「木綿屋」とし、木綿商を営んでいました。主屋は18世紀中頃の建築と考えられています。

◆じないまち交流館
開館時間/午前10時~午後5時
月曜休館(注)月曜日が祝日等の休日にあたるときは、その翌日が休館
入館料/無料
◆お問合せ
TEL・FAX 0721(26)0110

○は、国の登録有形文化財



むしこまど
虫籠窓の話
「べかこ窓」と呼ばれる無双の荒格子、庇を支える「持送り」など形でその時代がわかる寺内町の窓々です。
↓これは明治時代の虫籠窓のデザインです。

寺内町のあらまし
富田林寺内町は、大阪中心部から約30分、近鉄長野線富田林駅より約400m南に位置します。東西約400m、南北約350mあり、中世から続く寺内町の町割を残し、歴史ある町のタウンウォッチングが楽しめます。

富田林 じないまち散策絵図

地図の緑ライン()は散策モデルコース

- ◆越井家
越井家は屋号を「平尾屋」とし、材木商を営み、安政年間(1854~60)には庄屋をつとめた家柄です。主屋は明治末期の建築で、長大な米蔵があります。
- ◆奥谷家
奥谷家は屋号を「岩瀬屋」とし、江戸時代半ばから材木商を営んでいました。東側の排水路はかつて防火用の「用心堀」だったものです。
- ◆(東)奥谷家
(東)奥谷家は岩瀬屋二代目伊右衛門の子六右衛門を初代とし、油屋を営んでいました。
- ◆(南)奥谷家
(南)奥谷家は岩瀬屋の分家。主屋は明治前期の建築とされ、寺内町の町家建築の変遷を知る貴重な建物です。
- ◆佐藤家
佐藤家は紅梅酒味醂の醸造業を営み、現在も敷地内に多くの土蔵を残しています。
- ◆田守家
田守家は屋号を「黒山屋」とし、明治中期まで木綿屋を営んでいました。主屋は18世紀前半の建築と考えられ、旧杉山家に次ぐ古い年代のものです。
- ◆杉田家
杉田家は屋号を「梅屋」とし、油屋を営んでいました。建物は18世紀後半のものと考えられています。



旧杉山家住宅(重要文化財)
開館時間/午前10時~午後5時、月曜休館
(注)月曜日が祝日等の休日にあたるときは、その翌日が休館
入館料/大人400円、小・中学生200円(20名以上2割引)
◆お問合せ/TEL 0721(25)1000(代)
富田林市教育委員会文化財課
◆旧杉山家以外の各部の内部は公開しておりませんので、訪問はご遠慮下さい。
◆周辺区域は駐車禁止となっています。車で越しの場合は見学者用駐車場(旧杉山家住宅まで徒歩約5分)をご利用下さい。

P 見学者用駐車場

じないまち展望広場
開館時間/午前10時~午後5時
年末年始(12月28日~1月6日)休館
入場無料
◆お問合せ/富田林市教育委員会 文化財課

このあたりから見る石川が美しい

寺内町センター
商店の道具や店の看板などを展示。寺内町の歴史と文化がよくわかります。
入場無料。
◆お問合せ
富田林市教育委員会文化財課

富田林幼稚園
富田林小学校
富田林市役所
富田林警察署

至河内長野

金剛大橋 至河南・大字・千早赤阪